

2004 (平成16年) 12月号

カルメル

霊性センターニュース

12月号

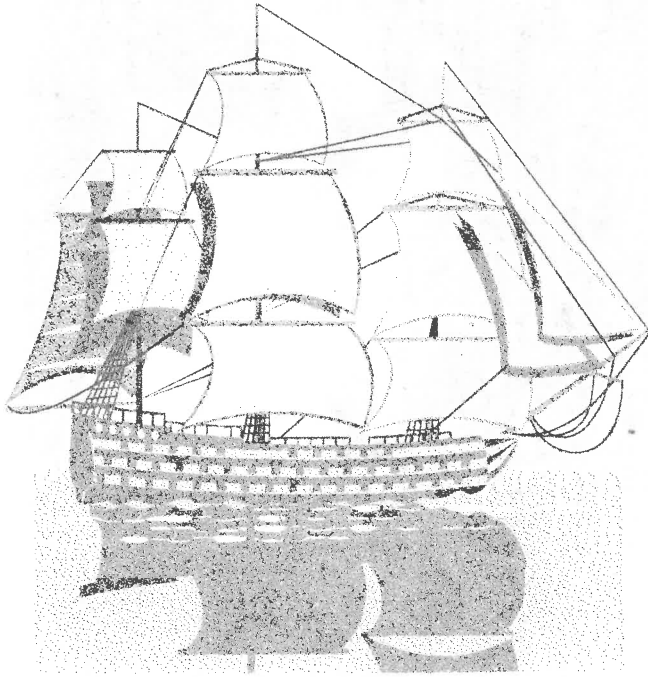


NO. 194

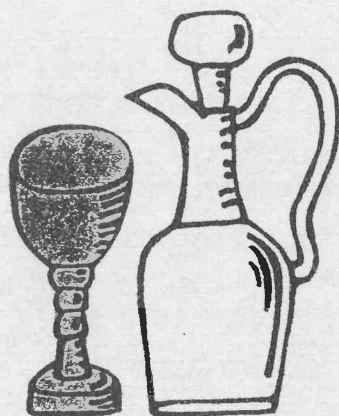
キリスト号

徳重敏寛

みんないっしょ
おんなじ舟に乗っている
キリスト号という
こんなに落ちぶれてしまっ
てねえ
など
言いながら
笑ってる
いい家柄だった人
金持ちだった人
神父だっているよ
学問のある 知識のある
でも
みんないっしょ
街の女もいっしょに
笑っているよ



心の泉



跣足カルメル在俗者会の会憲（４）

序言（２）

チプリアノ・ボンタッキョ神父

“洗礼によって、イエスの三つの使命—王職、祭司職、預言職—に参加する”と書いてあります。そこで、今回はこの三つの使命についてお話することになります。

まずあげられているものは“王職”です。会憲においてこの使命は次のよう説明されています。“この使命はすべてのキリスト者を神の計画に従って世界を変えることに義務づける”と。

“世界を変える”とはどういうことを意味するのでしょうか。それは人間社会を神の主権のもとに連れ戻すことではないでしょうか。愛、正義、真理のあるところは神の主権のもとにあります。一方、憎しみ、不正、偽りのあるところは悪魔の支配のもとにあります。従って、人間社会を神の主権のもとに連れ戻すということは、社会に入り込んである憎しみ、不正、偽りを追い払うことです。憎しみのあるところに愛を、偽りのあるところに真理を、不正が働いているところに正義をもたらすことです。会憲がいう“世界を変える”とはこういうことを意味するのではないのでしょうか。もちろん、世界を変える前に、自分の心を変えなければなりません。自分の心からあらゆる憎しみ、偽り、不正を取り除き、自分の心と生活を神の主権のもとに置くように努力することは世界を変えることに向けての第一歩ではないでしょうか。

さて、会憲にまた、“神の計画に従って”と書いてあります。神の“計画”は聖書の次の言葉に示されています。

“時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるものが、頭であるキリストのもとにひとつにまとめられます。天にあるもの、地にあるものもキリストのもとにまとめられるのです”（エフェソ 1,10）

また、“キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。… 神がすべてにおいてすべてとなられるためです”（Iコリント 24-28参照）

偽り、不正、憎しみはすべて取り除かれ、“最後の敵”として死も滅ぼされたとき、神の国の建設が完成されるのです。キリスト者皆がキリストのこの働きに協力するように召されています。これが“王職”の使命です。

祭司職の使命について、会憲に次の説明が書かれています。“祭司職の使命を通して、聖霊に導かれて、自分自身とすべての被造界をキリストと共に父なる神に奉献する”と。

まず、注目したいことは、神学では“祭司職”と“司祭職”という用語がそれぞれ異なる“役務”を意味しているということです。“祭司職”は洗礼によって引受ける役務であり、“司祭職”は叙階の秘跡によって引受ける役務です。それぞれの違いは、程度のことではなく、質的なものです。“司祭職”は信徒の中から呼び出された者が、司教の按手によって与えられるものです。これらの人々に求められている役務は、信徒共同体へのものであり、特に秘跡（ミサ、告解 etc.）を執り行ない、“祈りとみことばの奉仕に専念する”（使徒言行録 6, 4）ということです。

一方、“祭司職”は洗礼によって与えられる使命です。洗礼を受ける者は皆世界の人々の中から召し出され、キリストに結ばれることによってキリストの“祭司職”に参加する者となります。キリストが世界の人々のために自分を捧げるとともに、世界の人々の苦しみや嘆きや願い、また感謝と賛美を捧げたように、その祭司職に参加する者にも同じ心の姿勢が求められています。洗礼を受けている者は皆、キリストを通して、世界の人々のために自分自身のすべてを奉獻すると共に、世界の人々の嘆き、苦しみを捧げ、願いごとや賛美と感謝の祈りを執り成す役務を引受けています。従って自分のことだけ祈るキリスト者はこの役務を引き受けていることを忘れていないということになるのではないのでしょうか。

“預言職の使命は、人類に対する神のご計画を告げ知らせ、それに反するすべてのことを指弾することである” 会憲に書いてある言葉です。この言葉の中に二つのことがいわれています。神の計画を告げ知らせることとその計画の実現を妨害するすべての力を指弾するという二つのことです。

神の計画について、すでに王職の解説の中に述べた事柄に付け加えたい幾つかの原則があります。まず、神の計画を更に深く理解することが求められるということです。それは、みことばをよく聴き、それを心の中で深く味わうことによってなされることです。

二番目の原則は、なにより先に、自分の毎日の生活を通して神の計画を告げ知らせるということです。“神のみにて足りる”という信念に基づいた日々の生活が伴うならば人の心に訴える証しとなります。地上のはかないものにしがみついている日常生活は預言職の使命の拒否となります。神が約束してくださる“新しい天と新しい地”に対する“堅固な信仰と希望を保ちながら、今の時を生き、忍耐を持って、将来の栄光を待つ”（教会憲章 35）生き方こそ預言職を果たすものです。これも家庭と社会の日常生活を通してするのであれば、神の計画を人々に告げ知らせることになり、その計画に反するすべての力を指弾することになるのではないのでしょうか。

断想 (197)

クリスマス

詩人の魂の響(ひびき) : 基督(きりすと)

波がひとつの川をながれてゆくように

一念に基督を呼んでゆこう

私は

床の間に基督の磔の図をかけておく

その前ではとうてい人を憎みとおせない

真理によって基督を解くのではない

基督によって

真理の何であるかを知るのだ

(奥村 一郎)

ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』(72)

積極的に（能動的に）待つこと

待つことは、靈的生活にとって本質的なことです。けれどもイエスの弟子として待つことは、ただぼんやりと待つことではありません。それは、心の中にある神の約束を信じながら待つことです。この約束は、私たちが待ち望んでいることがらをすでに現実のものとしてくれるのです。私たちは、待降節の間、イエスの誕生を待ち望みます。復活祭の後には聖霊の降臨を、主の昇天の後には栄光に満ちた主の再臨を待ち望みます。私たちはいつも待っていますが、それは、私たちがすでに神の足跡を見たという確信のうちに待つことなのです。

神を待ち望むことは、積極的に（能動的に）かつ注意深く――そう、喜びをもって――待つことです。私たちは待つ間、待ち望んでいる方を思い出します。そしてその方を思い出しながら、彼が来られる時に彼を喜んで迎える共同体を創り出しているのです。

(1119)

忍耐強く待つこと

どのように私たちは、神を待つのでしょうか。私たちは忍耐強く待ちます。けれども忍耐は、消極的な（受身の）姿勢を意味しません。忍耐強く待つことは、バスが来るのを待つことや、雨が止むのを待つことや、日が昇るのを待つことではありません。それは積極的に（能動的に）待つことで、私たちが待ち望んでいる方のしるしを見出すために、今の瞬間を最大限に生きることです。

「忍耐 (patience)」という語は、「苦しむ」を意味するラテン語の動詞“patior”から来ています。忍耐強く待つことは、今の瞬間を苦しみぬくことであり、それはまた、今の瞬間を最大限に味わうことであり、私たちが立っている大地にまかれた種を強い植物へと成長させることです。忍耐強く待つことは、まさに私たちの目の前で起きていることに注意を向けることであり、その中に栄光に満ちた神の来臨の最初の輝き見出すことを、絶えず意味しているのです。

(1120)

くのり 彰訳

待降節第二主日

悔い改めよ 天の国は近づいた

(マタイ 3 : 1-12)

長い冬の後を訪れる春は、大地を覆うすべてに希望と命をもたらします。待降節も同様です。神の民に喜びと福音への期待、また幸福をもたらしてくれます。私たちのために人となられた神の最大のできごとを祝うために、私たちは今準備期間にいます。神は人となって私たちの間におられ、命を分け与えてくださり、私たち神の子らを私たちとともに愛されます。それほど偉大な力を持っておられる神が、かいば桶の中に生まれて私たちと共に生きることを選ばれたのですから、救い主である神を心を開いて迎え入れるための慈愛と信仰を持ちましょう。

今日の福音で洗礼者ヨハネは、悔い改めて神に立ち返ること、そして主の教えの忠実な信徒であろうと固い決心を持つことを私たちに勧めています。ヨハネは私たちに呼びかける声そのものです。「悔い改めよ。神の国は近づいた。」洗礼者ヨハネの人生がそうであったと同様に今の私たちにも、神の国を告げ知らせる使命が委ねられています。福音を告げ知らせるものとなるために、私たちには準備する必要があります。ちょうど洗礼者ヨハネのように私たちの内に、そしてこの周囲に主のための道を整えるのです。私たちの心におけるキリストの受肉のために、人間的なうぬぼれやねたみ、怒り、憎しみ、誤解、それら心の中でのイエスの誕生を阻むさまざまなものから、私たち自身を解き放たねばなりません。

神の言葉に従うなら、私たちはその言葉から豊かさと活力とを得ることができます。神は私たちの心のあらゆる秘密をご存じです。私たちの最大の関心は、心の底からの深い悔恨であるはずですが、そしてそれは誠実な自省によってもたらされることでしょう。待降節とは光り輝くクリスマスの前段階にすぎないのではなく、悔い改めの後に良い実を結び、そうして私たちの人生においてになる救い主を待つときなのです。

(Beatrice)

待降節第3主日

「口の利けなかった人が喜び歌う」(イザヤ35:6)

ノーベル賞作家の大江健三郎が「信仰を持たない者の祈り」と題して行なった講演の中に、イザヤ書の上に挙げた言葉を思い出させる箇所がありました。彼の長男は脳に障害を持って生まれました。そのときに彼が味わった苦悩も大きなものでしたが、子供を育てる苦勞のほうはずっと大きなものでした。最初は目が見えないのではないかと医者から言われ、光と名づけたそうです。目は見えるとわかったものの、耳が聞こえないのではないかと疑われました。知能の障害もあり、5歳くらいまで聞いているかどうかわからないという状態が続きました。あるとき息子が鳥の声に反応することに気づき、ありとあらゆる鳥の声のレコードを買って来てエンドレステープに録音し、子供に繰り返し、繰り返し聞かせました。鳴き声の後に鳥の名前をアナウンサーが告げるようになっていました。

1年ほどたった時、子供の調子がよかったので始めて山の家に連れて行きました。妻が別荘の掃除をしている間、大江健三郎は子供を肩車して森の中で待っていました。そのときクイナが鳴きました。すると大江健三郎の頭上で「クイナです」という澄み切った声でした。彼は最初幻聴かと思ったそうです。再びクイナが鳴いて、「クイナです」という声でしたので息子が喋ったと悟りました。すぐに奥さんにそのことを告げると、新しい苦難が始まったのかと思い、怪訝な顔をしたそうです。しかしまもなく本当に子供が話したとわかり、二人は興奮してしまいます。翌朝、光さんは無数の野鳥の声を聞き分け、その名を言いました。これでこの子は話せるとわかったので両親は積極的に子供に話しかけるようになり、だんだん話せるようになっていきました。健常者のように言葉で十分に自分を表現できるようにはなりませんが、音楽が好きになり、音楽で自分の内面を表現できるようになりました。口の利けなかった人が「喜び歌う」ようになったのです。

なんともすばらしいことではないですか。霊的な世界に目が開けるときのこれとよく似ているように思います。霊的な世界とは、神の愛を感じることに、言い換えれば愛の世界です。光さんが鳥の声とその名を録音したテープを繰り返し何度も聞いたように、私たちも神の愛を知るためには、隣人の誰かが行なってくれる愛の行いを何度も繰り返し経験しなければなりません。長い時間がかかるでしょうが、いつのまにか自分でも真似をすることが出来るようになります。何かきっかけが必要ですが、きっかけがあり、温かく見守ってくれる人がいると真似が出来るようになります。光さんが「クイナです」といったように。それからすでに霊的な世界(愛の世界)を生きている人に導かれて、だんだんに成長していけるようになります。

まず繰り返し何度か愛を経験する必要があります。これは誰でも本当は経験しているはずなのです。見逃すことも気がつかないことも、また気がついてやってみようと思わないこともあるでしょう。しかし、その人を批判してはいけません。自己中心の世界から愛の世界へと出て行くというのはとても大きな変化の経験なのです。今までまったく言葉を発しなかった子供が言葉を口にすると同じくらい大変なことなのです。また当人も焦ることはありません。すでに愛という世界があることに気がついているから焦りを覚えるのです。後は実行する(真似をする)きっかけが与えられるのを待っていればいいのです。いつか必ずその時、飛躍の時が来るでしょう。

(新井)

待降節第四主日

主を迎え入れましょう

(マタイ 1 : 18-24)

ネハとラケシュは友情を注ぐことにいそしんでいたため、大学の勉強にはそれほど勤勉ではありませんでした。その様子を見ていた年輩の教師は、自らの人生を彼らに語ります。それは次のような話です。妻もわたしも結婚するまで一度もお互いに会う機会はありませんでした。二人とも古い伝統的なヒンズー教のしきたりに従って育てられたのです。二人の結婚は、私がわずか六歳のときに両親がとり決めたものでした。十代のはじめには、彼女の家がどこにあるか知っていました。わたしは彼女の姿を一目だけでも見たいと思っていました。学校からの帰り道に私は何度も彼女の家へと遠回りをして、その扉の前を通り過ぎてみましました。けれども決して彼女に会える幸運には恵まれませんでした。

この話を聞いて驚いた学生たちは、どうして自ら選んだわけでもないのに彼女を愛せたのか口々に彼に尋ねました。彼は学生たちに、両親や兄弟姉妹を選んだかどうかと尋ね返しました。選んだときも選んでいないときも同じように愛するもの—そう言ったのです。

この話は、イエスが生まれる前のヨゼフとマリアの関係をより良く理解するための助言となりえます。彼らは神のなさり方に驚き、そして信じました。イエスを喜んで迎え入れ、喜びと平和を見いだしたのです。処女マリアのふしぎな懐妊を、ヨゼフは困惑のうちにも信じました。そこに神の御旨を見たので、ヨゼフはその託された責任を引き受けたのでした。

マリアとヨゼフはともに神の御旨を求めており、同じ態度、同じ心構えで単なる人間的英知を越えて行動し、神が彼らの前に開きおいた未来を信じたのでした。私たちの人生においても、神が私たちのやり方を打ち砕かれるように見えるとき、思ってもみない事態に引き入れられることでしょう。そのとき実は、神の御旨への新しい呼びかけを受けているのかも知れません。

(Beatrice)

クリスマス

神の善

(マタイ 1 : 1-25)

一人の婦人が暖炉のそばに腰掛けて、クリスマスのことを考えていました。そのときの彼女には、何もかもがばからしく感じられていました。なぜ神が人となり、私たちのうちに住まわれたのか。そんなことを考えているとき、戸外で物音がしました。見ると何羽ものガチョウの群れが、冷たい雪降る中をまごついています。外へ出た彼女はガチョウの群れを、あたたかいガレージへと入れてやろうとしました。けれども彼女が手を差し伸べようとすればするほど、ガチョウたちは空き地へと逃げまどうばかりです。手を尽くしかねた彼女は、もう無理だとあきらめることにしました。そうして彼女はこう思ったのです。“もしほんの少しの間だけでもガチョウになってあのガチョウたちと話せるのなら、私がどんなに良くしてあげられるかが説明できるのに。” その思いつきは彼女にとって衝撃でした。“これこそがクリスマスだわ。神が人となられたのは、私たちに良きものをもたらそうとなさったことなのだわ。”

キリストは人となり、神の真価を人類に示されました。平和と幸福に至る道を指し示してくださいました。命の真の値うちを人類の前にあらわされ、何が人生の目標であるかを説き示されました。人生を一変させる方法を示し、永遠の至福を約束なさいました。どれほど苦しい試練の中にあっても、いかに幸福でいられるかを見せてくださったのです。

世界は変わったでしょうか。はい、身元引き受け人の存在は何百万人もの人生を変えました。しかしながらキリストを受け入れない人々にとっては、少しも変わることはありません。戦争、飢餓、麻薬やアルコール中毒、暴行、社会的な腐敗、それらは現実にあります。人間は今なお自分たちが作り上げた神やお金を敬っています。真の神をさしおいてです。利己的な喜びと不信心は日々繰り返されています。非凡な医師が私たちの中にも彼の奉仕を役立てないなら、彼の存在は無益です。

信仰における身元引き受け人-イエス・キリスト-の呼びかけにいかに応えましょうか。それはこのクリスマスの饗宴を、私たちそれぞれがお祝いすることではないでしょうか。

《ゆるしの秘跡》(4)

⑤すすめと償い

信徒 きょうまでの主な罪を告白しました。ゆるしを お願いいたします。

罪の告白が終わったら、必ず、上記のように罪の告白が終わったことを司祭に知らせて欲しいと思います。そうでなければ、司祭は、罪の告白が終わったのかどうかかわからず、すすめや償いの指示をすることができないからです。

罪の告白が終わると、司祭はすすめを与えます。(事情によっては、省かれることもあります。)このすすめは、罪の内容について、どのようにしてこれからの信仰生活を歩み、神様にどのように従って生きていけばよいのかという助言です。ですから、人によって内容は異なります。いわばオーダーメイドです。

また、場合によっては、AさんとBさんとは、言っていることが違う場合もあります。たとえば、Aさんには、「ミサに行くようにすすめ」、Bさんには、「ミサに行かなくてもいい」とすすめるようなことがあります。これは、司祭がその人の事情や心の状態などを考慮して話すものです。ですから、ゆるしの秘跡において司祭の言ったことに関しては、司祭がゆるしの秘跡の秘密を厳守するのと同様に、信徒の方もゆるしの秘跡で司祭が言ったことをむやみに他言することは控えてもらいたいと思います。そうでないと、無用な誤解や混乱が生じるからです。

司祭からのすすめが終わると罪の償いの指示が行われます。中には、次の悔い改めの祈りの代わりに償いの祈りをする方がいらっしゃると思いますが、償いの祈りは、ゆるしの秘跡が終わり、告白をした場所から去った後に、速やかに行って下さい。

⑥悔い改めの祈り

司祭 それでは、神のゆるしを求め、心から悔い改めの祈りを唱えて下さい。

今までの痛悔の祈りでもまた別の祈りでも結構です。ちなみに、次の祈りを覚えておくと便利です。

「神の子、主イエス、罪人のわたしをあわれんでください。」

赦すことの難しさ

お母様方の宗教クラスをしていて、だんだん馴れてき、信頼関係が出てきますと、皆さんがポツポツ本音を出して下さるようになります。例えば

- ウチの子が何もしないのに、Y さんの子が強くていじめてばかり。それなのに Y さんは平気の平左で、すずしい顔をして謝りもしないんです。
- 自分の子どもに算数を教えていて、子どもがサッパリ理解しない時、主人が口を出し、“そんな教え方で分かる筈がないじゃないか。もっと丁寧に優しく言ってやらなくちゃ”

(そんなら自分で教えればいいじゃない。自分だっていつも怒鳴ってばかりいるくせに……) そんな自分がイヤになり、主人と口を利かないのです…… などなど。 そんなことってありますよね。そう、私たち一人一人にはそれぞれ価値観があり、性格、環境、育った教育を通して、皆違う眼がねをかけてしまうのです。皆が同じ価値観ならいいのですけれども……言っている本人、やっている本人は、もしかしたらそれ程悪いと思っていないかも知れませんのに……

二人のお母さん同志が道端で話しをしていました。一方は赤ちゃんを抱っこしていましたが、赤ちゃんは何も分からないので退屈し、ぐずって手をのばし、紅葉のような手で、相手のお母さんの髪の毛をゴチャゴチャにしまいました。「何やってんの!! 折角セットしてきたのに!!」と、怒ったり、叩いたりする人はあまりないでしょう。赤ちゃんは悪いことをしようと思ったのではなく、退屈してしまったのですから……

人生という道中には、このようなことが多々起こるものです。天のおん父は、そのために、見えるかたちとなってこの世に降られました。神という、完全な方であり、私たち人間と比較にならないのに、ジャンジャン人間からやつつけられ、とうとう殺されてしまいました。それって何なのでしょう? 聖書のことばが思い出されます。「父よ。彼らをお許してください。彼らは自分らが何をしているか、分からないのです」—ルカ 23 の 34— (ゆるし) とは、このキリストに従うことだけなのです。でも従う時に、キリストがされたのだからこうしなければ、ということだけでは足りません。頭で考えてするのではなく「キリストへの愛」がないと…そうです。お父さんを愛しているのなら、難しいことも積極的に出来るのです。 お告げのフランシスコ姉妹会 Sr. 熊田 照子

神よ、人よ、学びの子よ

蛭田 幼一

信じなければ、愛されていると。愛されていると確信しなければ。神よ、人よ、学びの子よ。僕もまた愛情をば注いだのだから。この愛がどういう性質のものなのか、どんな意志によるものなのか、僕は知らない。もしかしたら僕は心にもないことを言っているのかも知れない。それならば神よ、あなたが愛したのだ。あなたが先に愛されたのだ。信じなければ、愛されていると。愛されていると確信しなければ。――

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

7. アヴィラのイエスの聖テレジア (1515-1582) —その2

アウマダのテレサ・デ・セペダは、1515年、スペインのアヴィラに生まれた。彼女は、最も高度な神秘的恵みを受けた真の観想者であった。彼女は師であり、その数々の著作は、現在にいたるまで靈感の源となっている。それらに匹敵するものはなく、彼女は教会博士の称号を受けている。先の時代の聖人たちの祈りとは異なり、テレジアの祈りは、時々取り留めない状態になり、別の方向へと向かっていった。彼女の祈りに、他の考えが混じっているのはそのためである。あらゆる物事は愛するお方へと向かい、祈りはすべての物事の一部である。テレジアは、1582年10月4日にこの世を去り、教会は10月15日に彼女の記念を執り行っている。



イエスの聖テレジア

—— 祈り ——

『自叙伝』より

あなたの慈しみを歌うことができるために、どれほど多くの理由があることでしょうか！ 私の神よ、どうかその通りでありますように。そして、あなたに懇願いたします。あなたはこれほどの類ない慈しみを私に与えることをご計画なさったのですから、この慈しみを終わりなく歌うことができますように！ あなたの慈しみは、たびたび私に我を忘れさせてしまうのです。あなたをよりよく讃えるために。あなたなしで自分のうちに留まるなら、主よ、私は自分の靈魂の園の花を再び切り取ることはできません。そして、このみじめな土地は、かつてそうであったように、またごみの山を作ることになるでしょう。主よ、そのようなことをお許しにならないでくださいませ。あれほど多くの労苦をもって贖ってくださった、そして、度々立ち戻っては救ってやらなければならないこの靈魂が減びることをお望みにならないでくださいませ。(14:10-11)

私の神よ、私の靈魂が、自分自身を支配することができずに粉々に壊れている状態を脱し、あなたを賛美するために完全に一つにまとまるのは、いつのことになるのでしょうか。(17:5)

おお主よ、あなたは何と良いお方なのでしょう！ あなたは、永遠に祝せられますように！ 私の神よ、すべてのものがあなたをほめたたえますように！ このさすらいの地にあつてさえ、あなたが靈魂たちとの交わりをお持ちになると真実に語るができるほど、あなたは私たちを愛してくださったのですから。善良な靈魂たちの場合でも、やはりそれは大いなる寛大さとお心の広さを現わしています。私の主よ、実際、その交わりはあなたがお与えになるものです。そしてあなたは、あなたらしくそれをお与えになります。おお、無限の慈しみよ、あなたのみ業は何と偉大なのでしょう！(18:3)

わたしの主よ、あなたは祝せられますように！ あなたは、私のような汚れた泥沼を、あなたの食卓に供せられるほど清い水に変えてくださったのです！ おお天使たちの喜びよ、あなたは祝せられますように。これほど卑しい虫けらを高めようと望まれたのですから。(19:2)

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列17:3-4)」ということばに由来しています。

(浜田裕子訳・編)

いのちの言葉

2004年11月

闇の行いを脱ぎ捨てて光の武具を身に
着けましょう。

(ローマ 13:12)

闇と光。正反対のこの二つの現実は、どんな文化や宗教にも見られるものです。光は、命、善、完徳、幸福、永遠の命の象徴であり、闇は、冷たさ、ネガティブなもの、悪、恐れを思い起こさせます。

使徒パウロはローマの信徒たちに語っています。キリスト者は、不潔な行いや不義、悪、むさぼり、悪意、ねたみ、競争心、欺き、邪念¹などで築かれた「闇の」過去とは、もう関係を断ったのだ、と。

闇の行いを脱ぎ捨てて…

「闇の行い」とは、どのようなものでしょうか。パウロは、酩酊やみだらな行為、争いやねたみ²などを挙げています。他に、神を忘れ去ること、裏切り、盗み、殺人、傲慢、怒り、相手を見下すこともそうですし、物質主義や消費主義、快樂主義や虚栄も含まれるでしょう。

また私たちはつい、あらゆる種類のテレビ番組やインターネットの情報、良くない雑誌や映画を見てしまったり、節度のない洋服を身に着けたりしますが、そうした傾向も、闇の行いと言えるでしょう。

私たちは洗礼を受けた時、悪魔とその誘惑を退けることを三度にわたり宣言し、キリストと共に罪に死ぬことを望みました。今の時代、人々は悪魔についてあまり話そうとせず、その存在

を忘れようとして、「悪魔などいない」と言ったりしますが、にもかかわらず、戦争や大虐殺、あらゆる種類の暴力は後を断ちません。

「脱ぎ捨てる」ことは、力ずくの行為であり、犠牲が伴い、言動の一致、決意と勇気が求められますが、私たちが光の世界で生きたいと思うなら、必要なことです。実際、「いのちの言葉」は次のように続いています。

…光の武具を身に着けましょう。

ですから悪を「脱ぎ捨てる」だけでは十分でなく、「光の武具を身に着ける」必要があります。それは、使徒パウロの言葉を借りれば「主イエス・キリストを身にまとい」、イエスが私たちの内に生きてくださるようになる³ことです。使徒ペトロも、イエスと同じ心構えで「武装」する⁴ようにと招いています。

使徒たちの用いるイメージは強烈ですが、“キリストが生きてくださるようになる”のは、易しいことではありません。イエスの心、彼の考え方や行動の仕方が、私たちの内に反映されるようにし、イエスが愛されたように人を愛することを意味するからです。愛のために求められることは多く、私たちは自分の中のエゴと絶えず戦う必要があります。

しかし、光のもとに行くために、他の道はありません。このことは、ヨハネの第一の手紙でも、はっきりと語られています。「兄弟を愛する人は、いつも光の中におり、その人にはつまずきがありません。しかし、兄弟を憎む者は闇の中を歩み、自分がどこへ行くかを知りません。闇がこの人の目を見えなくしたからです。」⁵

闇の行いを脱ぎ捨てて光の武具を身に 着けましょう。

³ ローマ 13:14 参照

⁴ ペトロ 4:1 参照

⁵ ヨハネ 2:10-11

¹ ローマ 1:24-31 参照

² ローマ 13:13 参照

今月の「いのちの言葉」は、回心するよう私たちを招き、闇の世界から光の世界へ絶えず移るよう招くものです。では、洗礼の日にしたように、悪魔とその誘惑には「いいえ」と繰り返し、神には改めて「はい」と答えましょう。

だからといって、何か大きなことをしなければならぬ、というわけではありません。私たちがすでにしていること一つひとつを、真の愛ゆえに行い、真の愛を込めてすれば、十分なのです。

このように生きるなら、私たちの周りには、光と善の文化、真の幸福の文化が広がっていくでしょう。それは、天において永遠に手にする天国を、地上にいるうちから築くことです。天国は、イエスが約束してくださった一つの現実であり、地上で建設して天で住む家のようなものです。そこでは、イエスが、あふれる喜び、調和、美しさ、天上の舞、尽きぬ幸せを、賜物として私たちに与えてくださるでしょう。天国は、愛だからです。

ペルーに住むメアリーは、このことを私たちに証ししています。幼い三人の娘を持つ彼女は、「いのちの言葉」を通して神に出会いました。光を見出した彼女の生活は、根底からすっかり変わりました。

しかしまもなく、メアリーは重い病氣であることがわかり、入院先であと一カ月の命と宣告されました。彼女はイエスとの信頼に満ちた新しい関係を経験するようになり、それが力となって、一つの祈りをイエスに捧げました。「自分の回心が堅固なものとなり、周囲の人々の生活も変わるまで、あと五年命をください」とイエスに願ったのです。

そして、医者には説明のつかないことでしたが、メアリーは回復に向かい、退院することができました。家に帰った彼女は、同棲相手と一緒に準備をしてから、教会で結婚式を挙げ、三人の娘に洗礼を願いました。

五年たったころ、突然、病氣が再発

し、二週間足らずのうちに、メアリーは地上での人生を閉じました。

彼女は、娘たちにかかわることを全部細かいところまで言い残し、夫に希望を与えて、亡くなりました。「私はこれから、私を待っている天のお父さんのところへ行きます。神様がくださったこの五年間は、人生で一番すばらしい時でした。み言葉を通して、神様に出会ってからは、すべてがすばらしかったです。み言葉は真の命を与えてくれます！」

キアラ・ルービック

★いのちの言葉はその月の主日のミサで朗読される聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

ある日勤め先の学校で、廊下を歩いていると、一人の生徒がうかない顔つきでやってくるのが見えました。その日とても疲れていた私は、彼を避けたい思いになり、とっさに近くの教室に入りました。でも心の中で、「愛するべきではないのか」という声が出て、「面倒なことに今は関わりたくない」という自分の思いを“脱ぎ捨てる”ように求められているのを感じました。私は決心して、教室を出て、彼の方に向かっていきました。話しかけると、やはりとても落ち込んで、自信を失っていたので、話を聞いた後で励ましの言葉をかけました。数日後、満面の笑みを浮かべた彼は私のところに来て、「先生のアドバイス通りだった！ありがとうございます」と本当に嬉しそうでした。「あのとき彼を避けていたら、こうはならなかっただろう」と思い、私も大きな喜びを感じました。(M)

フォコラーレ

連絡先:03-3332-8460/03-3399-5508

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

いのちの言葉のホームページ

<http://www.geocities.jp/focolarejapan>

再び十字架のイエス

十字架のイエスによって
喜びが確かなものとなります

十字架のイエスによって
赦しと和解が可能となります

十字架のイエスによって
ほんとうの幸せがもたらされます

これは全て神秘です

十字架のイエスあなたは無尽蔵の
宝を持っておられます

(酒井利栄子)

Il poeta: «Oh, Signore, ma non è Natale?
Eppure oggi è il 25!».
«Hai ragione -rispose-
ma la festa è finita ieri
e gli uomini che hanno terminato gli opulenti banchetti
si sono dimenticati di invitarmi a cena.»

詩人: «ああ、主よ、御降誕の日ではないですか?
今日は25日ですよ!」
«その通りだ - と答えられた -
でも祝い事は昨日で終わった
華やかな饗宴をお開きとしてしまった人々は
私を食卓に招く事を忘れてしまっていたのだ。」

Marco Maffezzoli マルコ・マッフエッツォーリ

浅野 菜生子 訳

カルメル会の企画案内



2004年12月～2005年12月までの黙想会予定表

1. 聖書深読 (毎回土曜日 夕食～日曜日 16時)

'05/3月19日～20日・・・奥村一郎師

4月23日～27日

6月 4日～ 5日

10月22日～23日

12月17日～18日

2. 奉獻生活者のための黙想会

12月27日(月) 16時～1月5日(水) 朝・・・九里彰師

'05/7月28日(木) 16時～8月6日(土) 朝

8月12日(金) 16時～21日(日) 朝

12月27日(火) 16時～'06/1月5日(木)

3. カルメルの聖人を見つめ靈性を深める

(毎回水曜日 10時～16時)・・・九里彰師

A・・・大聖テレジア

B・・・十字架の聖ヨハネ

12月1日

1月19日

2月23日

3月23日

注: で囲んだ日にちは以前と変更になりましたのでご注意ください。

以下 '05年4月より毎回金曜日に変更

A・・・大聖テレジア

B・・・十字架の聖ヨハネ

4月 8日

5月13日

6月10日

7月8日

10月 7日

11月11日

12月 9日

'06/1月20日

'06/2月10日

3月10日

4. 青年男女黙想会・・・九里彰師・神学生

'05/5月21日(土) 16時～22(日) 16時

11月19日(土) 16時～20(日) 16時

5. 大祭日のミサにあずかるために

クリスマス 12月24日(金) 夕食なし～25日(土) 朝食あり
復活祭 '05/ 3月26日(土) 夕食～27日(日) 朝食
以上、チェックイン午後3時から。(講話なし) チェックアウト午前10時まで

聖週間を黙想する '05/ 3月24日(木) 夕食～27日(日) 朝食
(講話はありませんが木、金、土といつからでも参加でき、食事をご用意します)

6. 待降節黙想会 チプリアノ師

12月3日(金) 夕食 ～ 5日(日) 15時

7. 特別黙想会 伊従信子(N. D. V)

(夕食は済ませてご参加ください。)

- ① '05/5月27日(金) 午後8時～29日(日) 午後3時
- ② 10月28日(金) 午後8時～30日(日) 午後3時

* 電話でのお問い合わせは 午前9時～午後4時45分までをお願いします。
また、お申し込みは電話でもお受けいたしますが、間違いを避け、時間も問いませんので
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願いします。(お返事は致します)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

東京カルメル在俗者会黙想 場所：上野毛聖テレジア修道院(黙想)

'05/ 6月16日(木)～19日(日) チプリアノ師
8月24日(水)～27日(土) アロイジオ師
9月29日(木)～10月2日(日) 九里 彰師
10月13日(木)～16日(日) 新井延和師

空きがある場合には、一般の方でも参加可能です。

TEL/FAX 03-3892-1378 阿部昌子

カルメルの靈性研究クラス

*十字架の聖ヨハネ：『暗夜』

12月8日、12月22日、**1月20日(木)**。

(12月8日は、第1部第3章～第6章を読む予定です。)

*アヴィラの聖テレジア：『自叙伝』

12月2日(木)、12月15日、1月12日。

(12月2日は、第33～34章を読みます。)

どちらも水曜日、夜7：00より、上野毛教会信徒会館2階26号室でおこなわれます。時々、都合により曜日を変えますので、ご注意ください。

祈りの集い

11月26日、12月17日、1月21日

毎月一回金曜日の夜7：00より、上野毛聖テレジア修道院(黙想)小聖堂にて。都合の悪い場合は上野毛教会信徒会館ホールでおこなわれます。何の準備も要りません。

7：00～8：00 み言葉と念祷

8：00～8：30 分かち合い

[靈性研究クラス][祈りの集い]、いずれも申し込みは不要です。不定期の参加も可能ですが、「カルメルの靈性研究クラス」の方は、なるべく継続して出席されることが望まれます。

担当：九里^{くのり} 彰神父



黙 想 会 案 内 (宇治カルメル会)

(2004年10月から2005年12月まで)

聖書深読 (土曜日午後5時集合/日曜日午後4時解散)

12月11日～12日 奥村一郎神父
 05/ 3月12日～13日 奥村一郎神父
 6月18日～19日 カルメル会士
 11月19日～20日 カルメル会士

***日帰り深読** (日曜日午前10時～午後4時)

05/1月16日 奥村一郎神父
 4月24日 新井延和神父
 9月11日 カルメル会士
 12月11日 カルメル会士

***ミニ深読** (火曜日午後2時～4時)

05/2月 8日 深読スタッフ
 5月10日 深読スタッフ
 7月 5日 深読スタッフ
 10月18日 深読スタッフ

一般のための黙想

6日間の黙想 05/ 4月29日(金)夕～5月5日朝 福田正範神父
 12月30日(金)夕～1月5日朝 カルメル会士

青年男女黙想会 (午前10時～午後5時)

10月17日(日)・・・カルメル会士・カルメル宣教会
 05/ 4月17日(日)・・・カルメル会士・カルメル宣教会
 11月 6日(日)・・・カルメル会士・カルメル宣教会

水曜一般黙想会 (午前10時～午後4時まで)

10月13日 アビラの聖テレジア・・・Sr.ベアトリス
 11月17日 諸聖人の通功・・・・・・・・長岡幸一神父
 12月15日 十字架の聖ヨハネ・・・・・・・・奥村一郎神父
 05/ 1月19日 仏教とキリスト教の対話・・奥村一郎神父
 2月16日 聖書の祈り・・・・・・・・新井延和神父

- 3月16日 復 活 福田正範神父
- 4月20日 日本の神学 奥村一郎神父
- 5月18日 聖霊の賜物 長岡幸一神父
- 6月15日 イエスのみ心 カルメル会士
- 7月13日 カルメルの祈り カルメル会士
- 9月14日 エディット シュタイン アロイジオ神父
- 10月19日 神との親しさ カルメル会士
- 11月16日 聖性への招き Sr. ベアトリス
- 12月14日 十字架の聖ヨハネ カルメル会士

四旬節黙想 (午後5時～午後4時)

05/2月12日(土)～13日(日) 福田正範神父

待降節黙想 (午後5時～午後4時)

05/12月3日(土)～4日(日) カルメル会士

聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

05/9月30日(金)～10月1日(土) 伊従信子氏

奉獻生活者のための黙想会 (午後5時集合/午前9時解散)

10月18日(月)～10月27日(水) 福田正範神父

05/7月21日(木)～7月30日(土) カルメル会士

8月4日(木)～8月13日(土) カルメル会士

8月17日(水)～8月26日(金) カルメル会士

10月2日(日)～10月11日(火) カルメル会士

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
TEL 0774-32-7016 FAX 0774-32-7457

「立ちとまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～ (2005)

この会は現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神さまとの静かなひと時を過ごすために企画しました。イエス様は「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ28:20)といわれました。

共にいるイエス様とのひとときを、都会の真中で過ごしてみてもいかがでしょうか。

若者の召命、仕事の刷新、家庭生活の充実、老後のプランなどについて、

イエス様の言葉からヒントをいただきましょう。カルメル・ファミリーがお手伝いします。

第1回	1月10日(月)	「聖マタイに聴く(1)」	松田浩一神父
第2回	2月11日(金)	「カルメル会と御聖体」	松田浩一神父
第3回	3月21日(月)	「主の晩餐への道」	松田浩一神父
第4回	4月26日(火)	「ミサとわたしたちの召命」	松田浩一神父
第5回	5月24日(火)	「御聖体と聖母マリア」	中川博道神父
第6回	6月28日(火)	「聖マタイに聴く(2)」	松田浩一神父
第7回	7月18日(月)	「生ける水」	九里 彰神父
第8回	9月27日(火)	「十字架と教会の秘跡」	松田浩一神父
第9回	10月18日(火)	「主の食卓のグローバリゼーション」	福田正範神父
第10回	11月23日(水)	「主は皆さんと共に」	松田浩一神父

* 時間 いずれも AM10:00～PM4:00

* 場所 カリック日比野教会(地下鉄・名城線、日比野駅下車2番出口徒歩5分)
(駐車場は利用できません)

* 持ってくるもの 聖書・筆記用具・ロザリオ・昼食の弁当

* 定員 約15名 *費用 1,000円

プログラム 10:00 祈り

10:45 講話 1

12:00～12:45 昼食

12:45～ ゆるしの秘跡または短い面接

13:30～講話 2

14:45～ミサ

15:30～茶話会

また空いている時間にゆるしの秘跡、短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記住所へハガキか FAX で、氏名・住所・TEL を記載の上、開催日の3日前まで

必着のこと。なお、日比野教会で葬儀などある場合は中止となりますので、ご了承ください。

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝 4-5-17

カルメル会日比野修道院 一日静修係(担当松田浩一神父)

FAX052-671-1825 お問い合わせ TEL052-671-1003

聖書深読センターのご案内

1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院(黙想)の案内をご覧ください。

2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院(黙想)の案内をご覧ください。

3 京 都・・・12月 9日(木) 奥村 豊神父

場 所：河原町カトリック会館6階 費 用：各回 2,500 円

時 間：午前10時～午後4時 持参品：聖書・筆記用具・ノート

申し込み・問い合わせ

〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル

河原町カトリック会館内 聖書委員会

TEL：075-211-3484 FAX：075-211-3910

4 名古屋

第1回 4月9日(土) 日比野カトリック教会 中川博道神父

第2回 5月28日(土)～29日(日) 宇治カルメル黙想の家 奥村一郎神父

第3回 9月17日(土) 日比野カトリック教会 中川博道神父

第4回 10月29日(土)～30日(日) 宇治カルメル黙想の家 奥村神父

* 毎回、事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。

* 原則として、定員21名とし、申し込みはファックス、葉書でお願いします。

* コースは深読法を集中的に行う1日コースと、全行程を行う1泊2日コース
があります。

* 対象は信徒、未信徒の別を問いません。

キリストの教えに関心のある方でしたらどなたでもご参加下さい。

連絡先：〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚

TEL/FAX 052-701-3685

お知らせ

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 有光信子さんのグループ

参加者は「素読表」（B5あるいはその半分に、記号、全、及び思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはいないので、コメントや解読はない。

費用：1回 300円 年 10回 3,000円

送り先：〒663-8033 西宮市高木東町 31-20-504 有光信子

TEL/FAX 0798-67-8132

3 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrベアトリス指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srベアトリスまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター

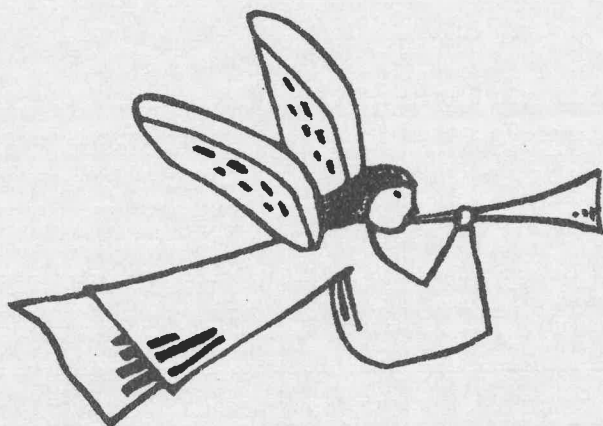
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srベアトリス

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



CWC・(キリスト者、婦人の集い)

生命山靈性交流センター

心のいほり

リーゼンフーバー講座

三位一体の聖体宣教女会

マリアのみ心会

聖心会黙想の家

ノートルダム・ド・ヴィ

諸所の企画紹介

- * CWC (キリスト者婦人の集い) 講師：九里 彰 神父 (カルメル会)

テーマ：聖書に登場する女性の霊性

日程：12/14 (火)。 時間：午前10:30~12:00

会場：真生会館第一会議室

- * 2005年

テーマ：教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的書簡

女性の尊厳と使命についてお話しします。

日程：1/18 (火)。 3/22 (火)。

4月以降は決まり次第本誌にてお知らせします。

- * 真命山の霊性 〒865-0133 熊本県玉名郡菊水町鯖浦1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

申し込み：TEL.0968-85-3200;Fax.0968-85-3186

2004年度

e-mail:shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

祈りの集い：テーマ・聖人の祈りに学ぶ

12/9 (木) 十字架の聖ヨハネ

- ***：尚、個人、グループで黙想会、研究会などできますので、ご相談下さい。宿泊は10名ぐらい迄可能です。

- * 『心のいほり』

内観瞑想センター代表 藤原直達神父 (大阪教区司祭)

〒572-0001 大阪府寝屋川成田東町3-27

TEL/FAX 072-802-5026 携帯 090-2401-9374

活動内容。定期的に各地で内観黙想の同行指導と講演。日本的な瞑想法と、自己発見、癒しの方法としての内観瞑想の普及。同行司祭は藤原神父です。

希望者は手紙かファックスで問い合わせてください。

電話では取り次いでおりません。

2004年度

11/24 (水) 2時~11/30 (火) 2時まで6泊7日 横浜・戸塚

12/12 (日) 2時~12/18 (土) 2時まで6泊7日 兵庫宝塚売布

2005年度

1/10 (月) 2時~1/16 (日) 2時まで6泊7日 横浜・戸塚

2/7 (月) 2時~2/13 (日) 2時まで6泊7日 兵庫宝塚売布

2/20 (日) 2時~2/26 (土) 2時まで6泊7日 札幌厚別ベネディクト

3/6 (日) 2時~3/12 (土) 2時まで6泊7日 横浜・戸塚

4/3 (日) 2時~4/9 (土) 2時まで6泊7日 兵庫・宝塚売布

4/10 (日) 2時~4/16 (土) 2時まで6泊7日 京都・竜安寺

* リーゼンフーバー講座・集い・研究会の案内

キリスト教 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館
入門講座 アルペホール。どなたでも聖書に基づきキリスト教の基本
テーマを致します。

キリスト教：毎月第一・第二火曜日 18時40分～20時30分

理解講座： 聖イグナチオ教会アルペホール。キリスト教の基礎知識
のある方。（2年間コース）信仰理解と信仰生活の深まり
を目的としキリスト教の中心テーマを探究

聖書研究会：木曜日 12時40分～13時25分 上智大学7号館316号研究
室、学生のどなたでも。新約聖書を1章づつ読んで話し合います

座禅会： 月曜日 17時20分～20時10分 * 木曜日 18時20分～20時30分
どなたでもどうぞ。初心者歓迎、遅刻、不定期の参加可。

接心： 2005.2/26 (土)8:30～27日(日)16時 上石神井 (5400)
5/29 (土)13:～30日(日)16時 宝塚市
7/31 (土)17:30～8/6(金)13時

黙想：毎月第2.第4火曜日 18:45 - 20:00： イグナチオ聖マリア聖堂
水曜日 18:00～18:30： 上智大学内クルトゥールハイム一階右
小聖堂 どなたでも

祈りの集い：下記土曜日 13:30～16:00 場所：S.J.ハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
12/11. * 2005.1/8.2/19.3/19

黙想会： 11/27.(土)10:00～11/28日(日)15:00 (1泊4400円)

アガペ会： 説明会と集い・下記の日 13時30分～(20代～40代の信者)
2005.1/22(土)：S.J.ハウス第5会議室

クリスマス会：12/18 (土)16:30～上智会館5階第6会議室 要申し込み
12/23 (火)14:00～上智大学内クルトゥールハイム聖堂

会社帰りの黙想：毎月第2.第4火曜日 18:45～20:00

聖イグナチオ教会マリア聖堂(中聖堂)

* 以上、問い合わせ・連絡先：クラウド・リーゼンフーバー神父
〒102-8571東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J. ハウス
直通電話 03-3238-5124、5111(伝言)、FAX,03-3238-5056

* 三位一体の聖体宣教女会 東京修道院

場所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5

TEL.042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会：2004年～2005年

「聖書で祈る」：指導：雨宮 慧師（東京教区司祭）対象：一般信徒

11月27日（土）5：30～28日（日）4：00

2005. 2月26日（土）5：30～27（日）4：00

祈りの集い：神が下さる私の道 指導：星野正道師（司祭）

対象：男女青年信徒

2005. 2月8日（土）10：00～4：00

黙想会：指導：星野正道師（司祭） *対象：一般信徒（お弁当持参）

2005. 2月4日（金）10：00～4：00

キリスト教講座 カトリックの教えを学びたい方

日時：毎週木曜日 10:00am～11:30am

十字架の使徒職の集い *対象：信徒

洗礼よる司祭職に生き、司祭のために祈る

期日：第1グループ 毎月第2金曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

第2グループ 毎月第1木曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

両グループ*司祭のために聖体礼拝を捧げます(1:30Pm～2:00Pm)

* マリアの御心会

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2

JR信濃町駅下車徒歩2分

問い合わせ・申し込み：TEL.03-3351-0297 : FAX.03-3353-8089

E-mail midorif@jpc.apc-org

「来て・見なさい」 結婚・修道生活・独身生活を選定したい方。

2004年度 (テーマ) 指導者

11/28（日）霊の識別 ティエリ・j・ロボアム師

12/19（日）星に導かれて ジャン・クロード・ホレリッヒ師

2005年度

1/23（日）聖体に現存するキリスト 森一弘司教

2/20（日）わたしの内に、巣くう社会の歪み 下川雅嗣師

3/20（日）毎日の生活の中に神を探す 加藤信也師

聖心会裾野修道院 ヴィラ・フジ (黙想の家)

〒411-1126 静岡県裾野市桃園198

TEL: 055-992-2120 FAX: 055-992-2165

聖書による個人指導黙想会

2005年1月26日(水) - 2月4日(金)

ヘルパー: 松本秀友師(京都教区)、Srs. 吹田真佐子、長谷川和子

申込先: 〒108-0072 東京都港区白金4-11-1

聖心会レターレ修道院 Sr.吹田 真佐子

Tel: 03-3446-1270 Fax: 03-3441-0454

〒455-0872 名古屋師港区西蟹田1833

聖心会名古屋修道院 Sr. 長谷川 和子

Tel: 052-302-4385 Fax: 052-309-1670

一般黙想会

テーマ: 「自分探し」(2回とも参加できる方)

講師: 近藤雅広神父(心のともしび運動)

① 2004年11月1日(月) 午後1時より

11月3日(水) 午後2時まで (了)

② 2005年4月14日(木) 午後1時より

4月16日(土) 午後2時まで

参考: 「私は誰ですか」(近藤雅広著 天使院刊) にもとづく講話形式の黙想会

申込先: Sr. 長谷川 和子 (上記の連絡先)

青年のための

祈りと分かち合いの集い

洗礼は受けたけど、自分の信仰を深める機会がない
祈りたいけど、どうしたらいいかわからない
信仰を分かち合える場が欲しいと思ったら
月に一度、一緒に学んで、祈って、分かち合いませんか？

2004年後期

11月27日(土) 死について考える

12月18日(土) クリスマスについて

スタッフ 片山はるひ ・ ノートルダム・ド・ヴィ会員

参加費200円 午後2時より。途中参加OKです。
午後5時半よりミサ(参加自由です)



お申し込み・問い合わせ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

ノートルダム・ド・ヴィ(青年の集い係)

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail ndv-jp@r2.dion.ne.jp

カルメル会の出版物のご案内

雑誌「カルメル」2004年特集号

「本質的なことからの再出発」

福音の本質的なこと —現代日本の文脈の中で …中川博通

現代日本におけるキリスト者の本質とは何か

—キリストの弟子として生きる …松田浩一

共同体の本質 —過ぎ行く時の試練の中で残ってゆくもの …大瀬高司

奉獻生活の本質 —愛の証しとしての奉獻生活 …九里 彰

カルメルの本質 —観想と神 …新井延和

雑誌「カルメル」No.314 (2004年秋号)

「今日の靈性」

祈り (8) …チプリアノ・ボンタッキョ

十字架の聖ヨハネのとらえた「自由と解放」(3) …九里 彰

カルメルの馨り (1) —カルメル日本宣教の根底史 (1562-1951) …大瀬高司

イエズス 私の最愛のお方 思い出してください(12) …ペトロ・アロイジオ

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(6) …伊従信子

神の訪れ、喜びの輪の誕生 …高橋重幸

三位一体のエリザベット(7) —愛に生きる …伊従信子

巡礼者 —心の旅 …ユージン・マッカーフリー

ガラスの心と柔らかな心と …森 みさ

出会い—修道生活きのうきょう—(8) …奥村一郎

*年5冊(春夏秋冬号+特集号)会員頒布価格：3000円(送料込み)

郵便振替：00190-4-195457

跣足カルメル修道会

(どなたでもご購入できます。電話でのご連絡は、事務担当竹田：Tel.03(5706)8356迄。)

「カリットへの旅 —カルメル会の歴史」

P・T・ロアバック著、女子カルメル会訳、男子カルメル会監修、

2003年、サンパウロ、定価(本体2500円+税)。

「十字架の聖ヨハネ詩集」

ルシアン・マリー編集、西宮女子カルメル会訳注、2003年、新世社、定

価(本体2000円+税)。

投稿についてのお願い

投稿くださるときには、次のようにしていただくと幸いです。

- * **締め切り** 毎月10日まで
- * **原稿サイズ** : B5 左右の余白 : 最低15mm
- * 「心の泉」のコーナーについては、
随想、こぼれ話、書評等。「断想」、「陽あたり」等、小題をつけて。
- * 「諸所の企画」のコーナーについては、
 - ①主催するグループ名もしくは個人名を明記。
 - ②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
 - ③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。
- * 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただくことがあります。また紙面の都合上、全体を打ち直し、詰めさせていただくこともあります。あらかじめご了承ください。
- * 寄稿連絡は、くのり 九里 彰神父宛にお願いいたします。
〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル会修道院
Tel (03) 3704-2171 Fax (03) 3704-1764

「靈性センターニュース」をご希望の方は、
下記まで、郵送ご希望の月数分×220円切手または現金を送ってください。

佐々木茂子 〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾 4-21-11
Tel (045) 575-5722

お知らせ

- * **E-mailの投稿**も受けつけます。
seminary@carmel-monastery.jp
- * **「読者の声」の欄**を設けます。日頃感じていること、本誌に対する感想などをお寄せ下さい。郵送、ファックス、e-mail等で。
- * **「霊性センターニュース」への献金**の窓口が変わりました。
郵便番号口座：00110-4-297250
加入者名：カルメル霊性センターニュース
通信欄に「霊性センターニュース」への献金とご記入ください。
振込用紙が必要な方は、ご請求下さい。お送りいたします。

編集後記

今年も悲喜こもごも、いろいろなことがありました。戦争とテロ、台風と地震、親しい人との別れと新たな出会い…、時は刻々と過ぎてゆきます。最初に主に従った弟子たちと同じように、私たちも問われています。「何を求めているのか」(ヨハネ1:38)と。

「自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである」(マルコ8:35)。

アヴェイラの聖テレジアは、「人生はせいぜい二時間ぐらいのものです」と言い、主に自分のすべてを捧げる「断固たる決意 (determinada determinación)」を周知の詩句の中に表出しています。

何ごとも あなたを乱すことなく / 何ごとも 恐れてはならない
すべては 過ぎ去る / 神のみ変わらない
忍耐は / すべてを勝ち得る
神を所有する者には / 何もとぼしいことがない
神のみで足りる

(P.九里)



十字架の聖ヨハネ

